

「ウクライナの地名の カタカナ表記に関する有識者会議」報告

岡 部 芳 彦

2019年9月4日、「ウクライナの地名のカタカナ表記に関する有識者会議」が東京都千代田区永田町の衆議院第一議員会館第一会議室で開催された。7月17日のウクライナ外務省の公開書簡に基づいて、同国駐日大使館から「ウクライナの地名はウクライナ語に基づいてスペルすべきだ」との問題提起があり、国際ウクライナ学会日本支部であるウクライナ研究会主催で、政官学の関係者が一堂に会し、日本語におけるウクライナの国名・地名の表記について議論した。

座長としてウクライナ研究会長である筆者を選出した後、ウクライナ大使館ユーリイ・ルトビノフ公使が趣旨を説明した。その後ウクライナ語専門家として中澤英彦東京外国語大学名誉教授、原田義也ウクライナ研究会員、松平翔外務省中東欧課主査より意見を聴取した。座長から「ウクライナの地名のカタカナ表記変更に関するアンケート調査」の結果を公表し、森英介日宇友好議員連盟会長はじめ有識者全員の発言を終えたのちに議論を行った。

これまで様々な議論があるウクライナの地名のカタカナ表記は、外交関係だけでなく、日本で出版される地図、教科書、入試問題にまで影響を及ぼす問題である。当会議は今後、ウクライナの地名について議論を続ける予定であり、議論の途上である。本稿では、議事抄録と配布資料を公表し、議論の現状を公開したい。

※当会議開催にあたっては、2019年度神戸学院大学経済学会研究助成金の援助を受けた。また日本ウクライナ友好議員連盟の森英介会長には多大なご助力をいただいた。併せて感謝申し上げたい。

【議事抄録】

令和元年9月7日

ウクライナ研究会

「ウクライナの地名のカタカナ表記に関する有識者会議」議事抄録

令和元年9月4日、衆議院第一議員会館第一会議室において、「ウクライナの地名のカタカナ表記に関する有識者会議」を開催した。同年7月17日のウクライナ外務省の公開書簡に基づいて同国駐日大使館より「ウクライナの地名はウクライナ語に基づいてスペルすべきだ」との問題提起があり、ウクライナ研究会主催で、政官学の関係者が一堂に会して、日本語におけるウクライナの国名・地名の表記について議論を行う事となった。

岡部芳彦会長を座長に選任したのち、ウクライナ大使館ユーリィ・ルトビノフ公使参事官より趣旨説明。その後、ウクライナ語専門家として中澤英彦東京外国語大学名誉教授、原田義也ウクライナ研究会員、松平翔外務省中・東欧課主査より意見を聴取。座長より「ウクライナの地名のカタカナ表記変更に関するアンケート調査」の結果を公表し、森英介日宇友好議員連盟会長はじめ有識者全員の発言を終えたのちに議論を行った。

その結果、全会一致で得られた結論は下記のとおりである。

- 1 ウクライナの地名のカタカナ表記に関しては出来る限りウクライナ語に近づけることを目指す。
- 2 首都名について、キーウ、キイフ、キエフの3例の併用を可とする。
- 3 国号について、ウクライナの変更はしない。

4 ウクライナの地名への「ヴ」の使用については継続して議論し、当面は「ウ」等との併用を認める。

5 ウクライナの漢字略号は「宇」を使用することを確認する※

6 その他のウクライナの地名についてはウクライナ研究会と駐日ウクライナ大使館、その他関係諸機関と合同の作業部会で検討を続ける。

※ウクライナ漢字略号の経緯については、天江喜七郎氏から駐ウクライナ日本国大使在任時に、電信の文字数減や他の「ウ」を頭文字とする国との混同を避けるため、「宇」を使うことを決定した経緯の説明があり、本会議で「宇」の使用を確認し、推奨することとした。

以上

【配布資料】

ウクライナの地名のカタカナ表記に関する有識者会議

令和元年9月4日（水）13：00～14：30

衆議院第一議員会館第一会議室

主催：ウクライナ研究会

【議事進行】

1, 主催者挨拶, 議長選任

2, ウクライナ大使館より趣旨説明

「ウクライナの地名のカタカナ表記に関する有識者会議」報告

3, ウクライナ語専門家より意見聴収

4, アンケート結果公表

5, 有識者より意見

6, 意見とりまとめ

【出席者】

有識者：

森英介（日本ウクライナ友好議員連盟会長，衆議院議員）

ユーリイ・ルトビノフ（ウクライナ大使館公使参事官）

ピオレッタ・ウドビク（ウクライナ大使館2等書記官）

松平翔（外務省中・東欧課主査）

黒川祐次（元駐ウクライナ日本国大使）

天江喜七郎（元駐ウクライナ日本国大使）

パプリー・ボグダン（富山国際大学准教授）

ユリヤ・ジャブコ（茨城キリスト教大学講師）

平野高志（ウクライナ国営通信社，UKRINFORM，テレビ会議参加）

岡部芳彦（ウクライナ研究会会長，神戸学院大学経済学部教授）

中澤英彦（ウクライナ研究会副会長，東京外国語大学名誉教授）

原田義也（ウクライナ研究会）

オブザーバー：

尾崎健介（サードウェーブ社長）

平位匡（同取締役）

オリハ・クバシニツァ（イヴァン・フランコ記念リヴィウ国立大学ジャーナ

リスト学部准教授)

資料 1

【中澤教授 原案】

ある言語を別の言語に移すときは 1. transcription（発音表記・音声表記）一音を移す方法, 2. transliteration（翻字・字訳）一文字を移す方法の 2 通りがある。また日本語やウクライナ語の音にはどのようなものがあるかを説明する際には, 1. 音韻論式方法と 2. 音声学式方法がある。例えば日本語の五十音の「は」行をローマ字に写す際には, 音韻論式では ha hi hu he ho 音声学式（厳密にはもっと細くなるが実用的に記す）では ha hi fu he ho といった具合です。

以下大使館の提示してきた地名のみ記します。

1. 日本人一般が用いる転写の代表として下の地図帳を利用しました。

新しい社会科地図 東京書籍 平成8年1月20日発行（下記表で異なる表記になる場合は上）

地歴高等地図 帝国書院 平成11年1月15日発行（下記表では下）

2. クイ, ムイ, ブイ, ヴなどは義務教育では使用しないため, 一般の日本人対象の表記の際には避けるのが好ましいという一般の意見を入れて下を作成しました。

2 番はクイーウ→キーイウ→日本人が実際に発音するとキーウとなるので, キーウ

4 番オデサ→（ロシア語式のオデッサを避けるためには, 棒引きがないと発音しにくいので）オデーサ

3. それ以外では, 現地でウクライナ語を使用し現地人の発音を常に耳にしているはずの長期滞在日本人が結局棒引き抜きでウクライナ語の固有名詞を発

「ウクライナの地名のカタカナ表記に関する有識者会議」報告

音することが多いので、原則棒引きは使用を避けました。

		発音表記・音声表記	翻字・字訳	試案 / 右は代案
1	Україна	ウクライーナ	ウクライナ	ウクライナ/ ウクライーナ
2	Київ	クイーイウ	クイイヴ	キーウ
3	Львів	リヴィーウ	リヴィヴ	リヴィウ/リビーウ
4	Одеса	オデーサ	オデサ	オデーサ
5	Харків	ハールキウ	ハルキヴ	ハルキウ/ハールキウ
6	Миколаїв	ムイコラーイウ	ムイコライヴ	ミコライウ/ミコラーイウ
7	Рівне	リーウネ	リヴネ	リウネ/リーウネ
8	Тернопіль	テルノーピリ	テルノピリ	テルノピリ/テルノーピリ
9	Чорнобиль	チョルノーブイリ	チョルノブイリ	チョルノピリ/チョルノーピリ

大使館の提案するものは翻字・字訳方式に基づいています。

ソビエト時代のスペル	正しい現代的なスペル	日本語
‘the Ukraine’	Ukraine	ウクライーナ
Kiev	Kyiv	クイイヴ
Lvov	Lviv	リヴィヴ
Odessa	Odesa	オデサ
Kharkov	Kharkiv	ハルキヴ
Nikolaev	Mykolaiv	ムイコライヴ
Rovno	Rivne	リヴネ
Ternopol	Ternopil	テルノピリ
Chernobyl	Chornobyl	チョルノブイリ

参考 日本で受け入れられている他の国の地名表記

	ロシア	発音表記・音声表記	翻字・字訳	地図帳2冊の表記
1	Москва	マスキヴァー	モスクヴァ	モスクワ
2	Санкт-Петербург	サンクトピチェルブルク	サンクトペテルブルグ	サンクトペテルブルク サンクトペテルブルグ
3	Находка	ナホートカ	ナホドカ	ナホトカ
4	Хабаровск	ハバーラフスク	ハバロヴスク	ハバロフスク
5	Владивосток	ヴラヂヴァーストク	ヴラヂヴォストク	ウラジオ（ホ）ストク ウラジオストク
6	Сочи	ソーチ	ソーチ	ソーチ

	米国	発音表記・音声表記	翻字・字訳	地図帳2冊の表記
1	Washington	ワシン（グ）トン	ワシントン	ワシントン
2	New York	ニューヨーク	ネウヨルク	ニューヨーク
	フランス			
3	Paris	パリ	パリス	パリ
	ウズベキスタン			
4	Tashkent	タシュケント	トシュケント	タシケント

資料 2

ウクライナの地名のカタカナ表記に関する有識者会議

【ウクライナの地名のカタカナ表記変更に関するアンケート調査結果】

【実施期間】 8月5日～8月23日

【回答数】 21/53

1, ウクライナの国名や地名をウクライナ語名に沿ったカタカナ表記にすることを：

支持する（ 10 ） 支持しない（ 6 ） どちらでもない（ 5 ）

※未記入1：「支持できるものもあれば、支持できない変更もあります」と付記

「ウクライナの地名のカタカナ表記に関する有識者会議」報告

2, ウクライナ大使館のウクライナの国名や地名の関するカタカナ表記の提案を；

支持する（ 4 ※ ） 支持しない（ 14 ） どちらでもない（ 4 ）

※ 1票は「ウクライーナ」「クィイヴ」には反対と付記

3, 以下の変更について：

「ウクライーナ」 支持（ 1 ） 支持しない（ 16 ） どちらでもない（ 5 ）

「クィイヴ」 支持（ 2 ） 支持しない（ 17 ） どちらでもない（ 3 ）

4, ウクライナ研究会を「ウクライーナ研究会」とすべきである：

支持する（ 1 ） 支持しない（ 16 ） どちらでもない（ 5 ）

【主な意見】 省略

資料 3

ウクライナの地名のカタカナ表記に関する有識者会議

【その他資料①：「キーウ」使用の例】

例①：

東京 発- キーウ (キエフ) 行き便
往復 ¥90,000円から

8月 から	9月 から	10月 から	11月 から	12月 から	1月 から
¥115,000	¥105,000	¥90,000	¥90,800	¥90,800	¥105,800

■ 緑色：最も安い運賃

(出典)：エール・フランスウェブサイト 2019年8月19日閲覧

例②：



(出典) Wikipedia [https://ja.wikipedia.org/wiki/キーウポスト 2019年8月19日閲覧]

例③：



(出典) UKINFORM 日本語版 [https://www.ukrinform.jp/rubric-society/2635979-ri-bentono-tuan-jiezaikiu-lu-da-shi-guan-qiandeukurainano-huo-dong-jiaga-ji-hui.html 2019年8月19日閲覧]

「ウクライナの地名のカタカナ表記に関する有識者会議」報告

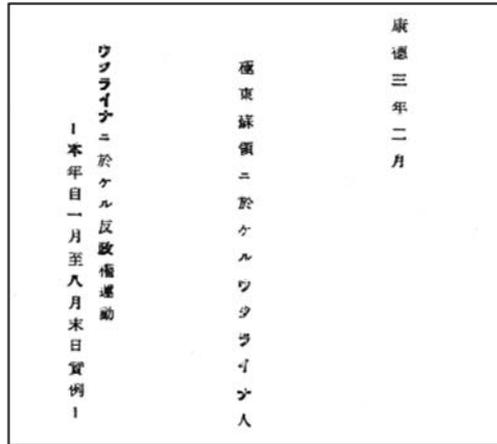
【その他資料②：「ウクライーナ」から「ウクライナ」への変遷】

例①：1930年代初頭 満洲国 哈爾濱（ハルビン）



(出典) Світ І. Українсько-японські взаємини. 1903-1945: Історичний огляд і спостереження. Нью-Йорк, 1972.

例②：1936年（康德3年）



・「ハルビンに在住するウクライナ人を、非常に異なった2つのグループに分かつことが出来る。1つのグループに属するものは小ロシアに生まれたウクライナ人で、自らロシア人と称している連中であり、その数は極めて大きい。彼らはウクライナ人であるにも拘わらず、ウクライナ語を話すことを恥じとし、表面ロシア人の如く装っている。他のグループに属するものは自ら時にウクライナ人と呼び、時には小ロシア人と呼んでいる連中である。彼らは通常ロシア語で話しているが……」

（出典）「極東蘇領におけるウクライナ人」『東亞政情』5，満州国外交部総務司計画科，1936年。